

「夜須高原こども芸術体験活動まつり」

【実施報告】

- 1 趣 旨 幼児及び小学生を含む家族を対象に、「地域の芸術家・機関・団体」と「夜須高原の里地里山」の自然・文化環境を組み合わせ、相乗効果を活かした芸術的自然体験活動の場と機会を提供する。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 期 間 令和4年11月19日（土）～20日（日）
- 4 場 所 国立夜須高原青少年自然の家
- 5 参加者 41名（13家族）
- 6 講 師 福岡教育大学 副理事 服部 一啓 氏  
九州大学吹奏楽団  
日ノ目スタジオ 代表 西村 政俊 氏  
街道カフェやまぼうし 代表 滝田 英徳 氏  
松山櫨復活委員会 代表 矢野 真由美 氏  
ぶなっぴ工房 代表 中間 令三 氏
- 7 活動様子 別紙参照
- 8 感 想
  - ① プログラムに関すること
    - ・デモンストレーションの際に、子どものハッと驚く顔を見ることができた。
    - ・初めて書道に触れた子供達がいきいきと文字を書いていた。
    - ・音色に聞き惚れました。
    - ・サクスの説明など興味深かった。
    - ・使用したことのない道具（ノコギリ、金づち）を使い、楽しく活動できた。
    - ・みつばちの生態を理解することができた。
    - ・櫨の歴史が分かって良かったです。
    - ・甘木絞りは、染めた後の仕上がりにワクワクしました。
  - ② 事業全体に関すること
    - ・普段家庭では実施しにくい芸術を体験することができ、親子共々楽しく過ごせました。
    - ・書道・音楽・創作とバランスの取れた内容で、五感で楽しむことができました。

## 9 成 果

本事業を通して、参加者は、日常では体験することの少ない芸術分野について体験することができた。普段使用したことのない道具を使用しながら作品を作り上げることで、子供たちの創造性や自主性を育むことができた。

また、各講師の普段の活動の様子などを聞くことで、地域に残る伝統技能や文化を知るという貴重な機会にもなった。このことは、参加者が芸術に興味を抱く一つのきっかけとなったのではないだろうか。

さらに、実施形態を日帰りから宿泊へと変更することで、家族がゆっくりと寝食を共にしながら活動することができ、時間に余裕を持って体験活動を提供することができた。

## 10 課 題

成果で述べたように、宿泊事業に変更することでのメリットはありつつも、2日目のワークショップについては、希望者が分散され、参加者数も限られることから、各活動の受入れにまだまだ余裕が見られた。今後は、宿泊者枠と日帰り枠を設けた運営を検討するなどの工夫が必要であると考えます。

また、限られた予算の中で、いかに経費を削減し、質の高い体験活動を提供し続けていくことができるかが、今後の大きな課題である。

7-1. 書道パフォーマンス&ワークショップ



7-2. 夜須高原ミニ・ファミリーコンサート



7-3. 創作ワークショップ①午前・②午後

【甘木絞り体験】



【ミツロウ蝋燭づくり体験】



【櫛せっけん&ハンドクリームづくり体験】



【木育ワークショップ】

